



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 140年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

第9回 人吉医療センター緩和ケア研修会



1月20、21日（土、日）当院3階講堂にて第9回緩和ケア研修会（PEACE）を開催しました。

厚生労働省は、がん対策基本法に基づくがん対策推進基本計画において「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得する」ことを目標としています。がん診療に携わるすべての医師が、緩和ケアについての基本的な知識を習得し、がん治療の初期段階から緩和ケアが提供されることを目標に、当院はがん診療連携拠点病院として研修会を開催しています。

今年の受講生は、熊本市内の医師、研修医、人吉球磨の医師、薬剤師、研修医、看護師等、総勢31名が受講しました。

研修は2日間「緩和ケアとは」という概論から、「つらさの包括的評価と症状緩和」「がん疼痛の評価と治

療」「オピオイドを開始するとき」「気持ちのつらさ」などの講義がありました。また、がん疼痛事例検討をグループワークで行い、「オピオイドを開始するとき」を患者、医者、観察者役になり思いを表出するなど、活発な意見の交換が行われました。受講生からは、「参加してよかった」「患者の気持ちを知ることができた。医師の仕事の告知など、心境を体感することができた」「いろいろなことを深く考えることができ、今後に活かしていきたい」など、肯定的な意見が聞かれました。来年度の研修も検討されています。多くの方の受講をお待ちしております。今回の研修会開催に当たり、多くの関係者の皆様にご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

6階病棟 看護師 吉村 文子

第47回地域協議会開催

当協議会は、地域医療や当院が地域の実情に合わせた運営を行う為の協議を行う場となっており、人吉球磨、伊佐、西諸地域の医師会、歯科医師会、薬剤師会、行政、学識経験者などで構成されています。今年度は6月、10月と開催され、今回3回目となる第47回地域協議会を1月29日に開催しました。

会では、熊本メディカルネットワークについての協議や当院への要望（当院健診後の紹介状を持った患者さんの受診についての確認、地域の医療機関との連携やそれに対する意見など）、当院訪問看護ステーションの立ち上げなど情報提供や話し合いが行われました。熊本県メディ

カルネットワークでは、現在登録者がいるものの活発な利用に至っていないという現状があり、当院では環境整備などを進めていることなど、活発な利用を目指して話し合いが行われました。地域の医療機関との役割分担を行っている中、受診について住民の方にも誤解を受ける事も多く、地域の先生方、行政とも密な連携をとりながら啓発もおこなっていかないといけないと感じました。

様々な地域の職種の方が参加しており、今後も地域の実情の把握や情報共有など有意義な会になればと思います。



医療福祉連携室 宮原 由佳

日本救急看護学会主催 ファーストエイド実技コース開催

1月13日（土）、日本救急看護学会主催でファーストエイド実技コースを開催しました。このコースの目的は、①フィジカルアセスメントに基づき緊急性を判断②一次救命処置（BLS）の実施③止血・包帯法、創傷ケア等の応急処置を実施④急性症状への初期対応を実施⑤救急患者および家族等の擁護者となる⑥災害時の応急救護活動を行う事です。



実技コース開催は今回で3回目となり、真剣な中にも笑顔溢れるコースとなり受講者からは『パソコンで学習

したものより勉強になりました！』などの言葉が聞かれました。やはりデスク学習も大事ですが、実際に行動し学ぶ事の方が何倍も実力に繋がるのではないかと感じています。

今後とも、当院でのファーストエイド実技コース定期開催を考えていますので、興味ある方はどしどしご参加下さい！



7階病棟 看護師 立開 光義

第4回 INARS(アイナース)in 人吉コース

平成30年1月13日（土）、第4回INARS人吉コースが開催されました。今回も各地域からの参加があり、大変有意義なコース開催となりました。本コースの目的は、「心停止を回避する」が主眼にあり、そのために実技を通して、患者の「評価」「認識」「行動」を繰り返す行う、体系的アプローチをチームで学んでいくコースとなっています。

私たちは今後も、人吉球磨地域に質の高い看護が提供できるよう、日々研鑽してまいりますのでよろしくお願い致します。

《受講生の声》

INARSでは、患者の状態変化を迅速かつ的確に評価・認識し、医師へ連絡し到着までの間、看護師チームと協力して状態の安定化を図り、心停止を回避するための適切な看護介入を学ぶことを目的としています。

心停止を回避するためには、気道・呼吸・循環・中枢神経の順で評価を進めることで、潜在する酸素循環の破綻を見落とすことなく、具体的に情報収集することができます。

コースでは4～5名のグループに分かれ、インストラクター指導のもと、スキルステーションで1次評価(ABCDの評価)の方法を学びました。シナリオステーションでは、インストラクターが患者役になり、実際に1次

評価を行い、ABCの安定化を図るためのサポートをしながら、2次評価・3次評価へ繋げ、心停止にしないようにチームで協力しながら対応しました。

最初は、院外からの参加者もいたので緊張しましたが、インストラクターの方が基本的なスキルをわかりやすく教えてください、楽しく受講することができました。

これから、日々の看護の中での観察や急変時に、INARSで学んだことを活かしていきたいと思っています。



9階病棟看護師 萩原 有希



平成 29 年度九州・沖縄ブロック DMAT 実動訓練

1月27日(土)～28日(日)の2日間、平成29年度九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練が佐賀県にて行われ、本院のDMATも参加しました。DMATとは医師、看護師、業務調整員で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームのことです。本院DMAT隊員は10名おり今回は渡辺医師、尾方看護師、西山看護師、山田検査技師、筆者が参加しました。訓練は佐賀平野北縁断層帯を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生し、更に同日、先の地震と連動するマグニチュード7.5の地震が発生。この地震により最大3.5メートルの津波が有明海沿岸全域に到達し、各地で甚大な被害が発生したことを想定して行われました。本院DMATは活動拠点本部のある佐賀県杵島郡にある白石共立病院と、病院支援にて派遣された有島病院にて活動しました。有島病院につくと被害状況を院長、事務長より確認し、立ち上げたインターネットや衛星電話にて活動拠点本部へ状況報告、必要な物資の要請をかけました。有島病院のスタッフの方々は勤務中にも関わらず訓練に協力して頂いたり、熱心に訓練を見学さ

れたり災害に対する高い意識を持っておられ、こちらが身の引き締まる思いでした。皆さんも最近よく耳にする南海トラフ地震では最大クラスの地震が発生すると、静岡県から宮崎県にかけての一部では震度7となる可能性があるほか、それに隣接する周辺の広い地域では震度6強から6



弱の強い揺れになると想定されています。また、関東地方から九州地方にかけての太平洋沿岸の広い地域に10mを超える大津波の来襲が想定されています。本院DMATはこれからも訓練を繰り返し、「その時」が来た時にしっかりと対応できるよう備えていきたいと思えます。

人吉医療センター DMAT 田上 智久

研修医挨拶



済生会熊本病院所属研修医の信國有紀と申します。今年度の11月～1月の3ヶ月間、小児科・産婦人科・麻酔科、そして救急外来で研修させて頂きました。

慣れない環境で戸惑うことも多々ありましたが、何より自分の未熟さゆえに皆様にはご迷惑をおかけすることばかりだったかと思いますが、多くの先生方、看護師さん、スタッフの方々、皆様の温かさに日々助けられました。本当にありがとうございました。

済生会では見ることでできなかった小児科や産婦人科での研修は毎日がとても新鮮で、特に産婦人科では感動するものがありました。救急外来では、限られた人員でまわさなければならず、済生会とはまた違った緊張

感がありました。しかし結果的にはいつも、たくさんの方に助けて頂いていたのが現状で、ただただ感謝しかありません。

今後、専門に進み、自分自身に求められるものや責任が大きくなっていく中で、多くの知識やスキルを身につけていくことももちろんですが、この3ヶ月間で幾度となく痛感した、いつもどこかでだれかに支えられているという事実を忘れず、そして感謝の気持ちを忘れず、精進していければと思います。

最後になりましたが、3ヶ月間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

協力型臨床研修医 2年 信國 有紀

チームで支えるがん治療 vol.7 ～薬剤師～

内容や副作用等の説明、抗がん剤の投与量計算、副作用のチェック、支持療法の提案などを行っています。化学療法に対して多くの方に共通している不安として、脱毛と嘔吐が挙げられます。化学療法の説明の時に「脱毛があるんでしょう?」とか、「吐き気や嘔吐がとても心配です」という声をよく聞きます。

抗がん剤には様々な種類があり、残念ながら脱毛が避けられない薬剤もありますが、脱毛をほとんどおこさない薬剤もたくさんあります。

また、吐き気や嘔吐についても薬剤によります。嘔吐を起こす頻度がとても高い薬剤や、まったくそうでない薬剤もたくさんあります。制吐療法(嘔吐を抑える治療)は2009年ごろまでは、制吐剤の効果は限定的で、化学療法の際に1日に何度も嘔吐することは抗がん剤によっては確かにありました。しかし、2010年にとってもよい制吐剤が日本でも使用できるようになり、嘔吐

を起こす頻度がとても高い薬剤を使用しても、1日に何度も嘔吐をすることは今ではほとんどなくなりました。

つまり、脱毛は薬剤によりますが、嘔吐については、現在はずいぶん抑えることが可能です。化学療法による副作用に不安がある場合には遠慮なく薬剤師にお尋ねください。薬剤師が介入することで、患者さんがかかえる化学療法に対する不安が少しでも軽減できるよう今後とも努めてまいります。

◆ 支持療法とは

がんそのものに伴う症状や治療による副作用に対するの予防策、症状を軽減させるための治療のことです。例えば、感染症に対する積極的な抗生剤の投与や、抗がん剤の副作用である貧血や血小板減少に対する適切な輸血療法、吐き気・嘔吐に対する制吐剤の使用などがあります。

国立がん研究センター がん情報サービス
ホームページより

薬剤師 副薬剤科長 嘉村 基樹

あなたの意思、つたえていますか？

～人吉地区移植医療を考える会開催～

1月16日富山県臓器移植コーディネーターの高橋絹代先生をお迎えして、人吉地区移植医療を考える会を開催いたしました。

「18歳未満の患者さん（児童）からの臓器提供について～心配りのポイントと注意点（虐待の有無等）～」というテーマでの講演でしたが、患者さんを中心とした医療の展開が良い家族ケアに繋がるといふ、移植医療に限らず全ての医療を提供する場面において医療者が認識しておかなければならない考え方についてもお話が及び非常に考えさせられた研修会でした。

当院の移植コーディネーターから、当院の実績と今回の研修会で学んだことについて、ご報告をさせていただきます。



今回の研修で、臓器移植関連法規や臓器移植までの流れ、ドナー家族の心理・状況、移植に関わる注意点などを学ぶことができました。

特にご家族の意思確認や意思決定支援、擁護的な関わりが重要であることも分かりました。しかし、それは移植医療に特化したものではなく、普段からの患者・家族支援の延長線上にあることを改めて学ぶことができました。

当院は心停止下角膜提供が可能な施設です。平成27年度1件、平成28年度1件、平成29年度は相談件数4件、うち2件の角膜提供症例がありました。

今後も「提供する権利」「提供しない権利」「受ける権利」「受けない権利」という臓器移植の4つの権利が守れるよう、院内移植Coとしてシステム構築や院内教育・普及・啓発活動に努めていきたいと思っております。

院内移植コーディネーター 平野 理恵

自殺対策強化月間

厚生労働省は例年、月別自殺者数の最も多い3月を「自殺対策強化月間」と定められています。今回、当院も参加している人吉球磨の自殺対策の推進体制について紹介いたします。

人吉球磨地域は、県内でも自殺死亡率が高く、近年大きな課題となっています。そこで、熊本県人吉保健所が中心となり、行政、警察、消防、医療機関、教育、一般企業、その他関係団体等、多岐にわたる関係機関が集まり、関係者と効果的な自殺予防対策を協議することや圏域における連携体制の強化を図ることを目的にH25年から「人吉球磨地域自殺対策連絡会」が実施されました。実際に各分野の担当者が顔を合わせて、それぞれが抱える現状や課題を聞くことができ、新たな気づきがあり、自殺対策に活かすことができると思っています。また、自殺未遂等

で救急外来受診後のフォローや関係機関との連携を協議する目的に平成28年度から「人吉球磨地域自殺対策検討会」が実施され、やはりここでも関係機関の担当者と顔を合わせ直接話し合うことで、具体的な対応や方法を検討しています。

当院は急性期病院ですが、精神科はありません。しかし救急外来や病棟などで自殺企図の患者さんに対応することがあります。自殺の現状や悩みを抱えている方への気づき関わり方を理解することは大事だと考えています。当院も上記連絡会を通じて、昨年、院内スタッフ向けにゲートキーパー研修会を開催しました。来年度も同様に研修を計画していきたいと思っておりますので、参加されていない方は是非参加して下さい。

医療福祉連携室 田頭 隼人



3月9日（金）国立遺伝学研究所 人類遺伝研究部門教授 井ノ上 逸朗先生をお迎えし、「遺伝子と近未来の医療」をテーマに市民公開講座を開催致します。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時：平成30年3月9日（金）17:30～（参加無料）

場所：当院3階 講堂

お問い合わせ：当院 教育研修・広報・図書委員会 / 社会福祉連携室

Tel（代表）：0966-22-2191

全病棟面会 お見舞い禁止 のお知らせ

当院では現在、感染予防・防犯の為、本館棟エレベーター前のドアを施錠し、面会を制限しておりますが、インフルエンザの流行により、より一層の感染予防・拡大防止のため、1/18から面会・お見舞いを全病棟お断りしております。

急を要する場合などございましたときは、各病棟にお問い合わせ下さい。また、その場合には体調を確認、マスクの着用、手指衛生など十分に行っていただくなどの予防策をとらせていただきます。

また、今年から面会制限期間中の院内イベント（ぬりえ、アロマ講座等）を中止しております。大変ご迷惑をお掛けしますが、どうぞご理解とご協力の程、宜しくお申し致します。

特別臨床実習 - 地域医療 -

人吉医療センターでの3週間を振り返ってみると大学での実習では得難い経験ばかりでした。実習は、五木村診療所・ER・訪問診療（看護）・選択科（私は産婦人科）の4つに大きく分けられます。

まず五木村診療所での実習ですが3回のうち2回を田浦先生に直接指導していただけたため、医学的なことだけでなく、地域医療特有の課題なども知ることが出来ました。なかでも連続して30人以上の患者さんの聴診をする機会があったのは、非常にいい経験となりました。

次にメディカルコントロールの会議も含めたERですが、極端な僻地や離島ではない人吉においても、搬送時間の長さ・人員の不足などの課題が有ることが分かりました。

3つ目の訪問診療ですが、これからの日本では重要性が

今回、クリニカルクラークシップの地域医療実習として人吉医療センターで実習させていただきました。人吉医療センターを選択させていただいた理由は2つあります。1つは、私は熊本県の医師修学資金の貸与を受けており、将来人吉医療センターでも働かせていただく可能性もあるため、人吉がどのようなところか見ておきたかったからです。もう1つは、寒い時期は温泉が気持ちよさそうだと思ったからです。

今まで人吉に来たことはなく、なんとなく僻地で寂れているようなイメージを持っていました。しかしすぐにそのイメージは覆されました。歴史があり、美味しいものが食べられるお店があり、200円で温泉に入ることができ、おみくじでは大吉が出て、何より人がいいと思いました。困ったことと言えばスーパーが20時に閉まっていたことと、体重が2kgほど増えてしまったことくらい

急速に高まる分野であり、球磨地域は熊本市の20年後の姿であるということを見習う方に教えて頂き、日本の未来を先取りしている姿が見られました。

4つ目の産婦人科では大学では考えられないほど多くの手術に入らせて頂き、また術野がとても近かったため、勉強になりました。

人吉は熊本のみならず、宮崎・鹿児島を含めた3県の県境地域の医療の中核を成す非常に重要な病院であり、手術も多く単なる地域医療というよりは地域の中核医療を一手に担っており、研修医として働く魅力を感じました。

最後になりますが、お世話になりました木村院長・大竹先生・田浦先生をはじめとする先生方に深くお礼を申し上げます。

熊本大学医学部医学科 河野 礼



です。

実習でも学生担当をしてくださった田浦先生や花牟禮さんをはじめとした方々に本当に親切にいただき、3週間があつという間に過ぎてしまいました。もちろん楽しただけではなく、学ぶことも多い3週間でした。大学での実習では形だけは患者さんを担当しても実習期間が1週間しかないこともあり、実際に関わることは少なかったのですが、人吉医療センターでは毎日お話をすることができました。また、毎週訪問看護に同行させていただき、様々な人生があるということを感じ、必要とされる医療もいろいろな形があるのだと思いました。

3週間本当にありがとうございました。またいつかお世話になることがあると思いますが、そのときはよろしくお願いいたします。

熊本大学医学部医学科 山口 裕介

連携施設 探訪

当院は、みなさんが住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう、人吉・球磨地域の医療・福祉機関と連携して地域包括ケアを推進していきたいと考えています。

そこで、地域の社会資源を周知していただくため、連携施設をご紹介します。今回は「サービス付き高齢者向け住宅 絆」さんです。

サービス付き高齢者向け住宅 絆 Vol.17

【施設の特徴】

私たちは、心のケアを大切にし、安らぎを提供します。また、日常生活における楽しみ・生き甲斐・感動を共有する「その人らしい生活」の実現を目指します。

チームケアを心がけ、健康的な生活をサポートし、安心と信頼をお届けするとともに、プライバシーを尊重し、快適な生活環境を創出致します。

1. 利用者様に対して誠実な対応を行います。
2. 地域との密着な連携に努め、地域社会の発達に貢献します。
3. 常に自己の向上心を持ち、質の高いサービスを提供します。

【対象者】

- 単身の場合 ① 60歳以上の方
② 要介護・要支援認定を受けている60歳未満の方
- 同居の場合 ① 60歳以上の本人と、その配偶者
② 60歳以上の本人と、60歳以上の親族
③ 60歳以上の本人と、要介護・要支援認定を受けている60歳未満の親族

【サービス内容】

サービス付き高齢者向け住宅 19部屋（21床）で2人部屋2室、1人部屋17室 通所介護（定員 15名）
居宅介護支援事業所 福祉用具販売貸与、医療機器販売

【地域の皆様に一言】

平成28年12月14日に多良木町黒肥地に「サービス付き高齢者向け住宅 絆」を開設しました。「個別援助を大切に」「家族のような存在に」をコンセプトにケアを提供しつつ、入居者様が社



外観



会との繋がりを失わないよう、共に地域活動等に取り組んでまいります。

最後に、心優しい専門のスタッフで24時間365日ケアに努めて参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。また、弊社で、運営しております「居宅介護支援事業所」「デイサービスセンター」「福祉用具販売貸与」において、連携ときめ細やかなライフプランニングに努め、皆様のより良きパートナーとなれますように全力でサポートしていく所存であります。

【お問い合わせ先】 TEL：0966-35-6881 FAX：0966-42-2607
担当 白川里子、池田初子

【訪問スタッフからのコメント】

多良木町の久米地区、多良木地区、黒肥地区の中で、黒肥地区に高齢者向けの福祉施設がないため作って欲しいとの地域住民の皆様の要望で設立を決意し、オープンされた「絆」。山の中にあり、とても静かで、ゆっくと過ごすことのできる環境が整えられていました。共有のリビングもとても広く、入居者様の集い憩いの場として、活用できるつくりとなっていました。

ご存じですか？ 指定難病患者への医療費助成制度 ～軽症高額該当について～

指定難病の診断がついた方で症状の程度が疾病ごとの重症度分類等に該当しない場合であっても、「軽症高額該当基準」を満たす場合は、特定医療費支給認定を受けることができます。

〈軽症高額該当基準〉

支給認定の申請日の属する月以前の12月以内ににおいて、指定難病にかかわる医療費の総額（10割分）が、33,330円を超える月が3月以上であること

医療費の総額には医療機関で支払う医療費の他、調剤薬局で処方されるお薬の代金も含まれます。（指定難病にかかわるお薬のみ）

申請に必要な書類は、指定難病の申請が新規の方と再申請の方では異なります。もしかして、自分は該当するのではないかと思ったら、受付窓口の保健所やかかりつけの医療機関などへ問い合わせください。

多目的室もちの樹のご紹介

～3月27日から4月9日は絵本週間です～

4月2日の国際子どもの本の日を含む3月27日から4月9日は絵本週間です。

当院の多目的室兼、患者さんが利用可能な図書室、もちの樹にも沢山の子ども向けの本や絵本が揃っています。

絵本、児童書といえば子ども向けに書かれた読み物ですが、大人が読んで十分に読み応えがある本も多数あります。

例えば、もちの樹にある、映画化されたミヒヤエルエンデの著書「モモ」は「時間貯蓄銀行」と称する灰色の男たちによって人々から時間が盗まれてしまい皆の心から余裕が消えてしまうのですが、不思議な力を持つ少女モモが冒険の中で奪われた時間を取り戻すというストーリーです。この「時間」は「お金」に変換され現代の経済システムに疑問を抱かせる側面を持つと言われており、女優の小泉今日子さんもファンと公言されているそうです。

もちの樹は、多くの人に楽しんでいただくよう1週間と短い期間ではありますが図書の貸し出しをおこなっております。貸し出しの手続きをしていただければ、ご自宅へお持ち帰りいただくことも可能です。時にはテレビやゲームの電源を切って、家でゆっくりと子どもさんと一緒に読書を楽しみませんか？



入札情報

下記の通り平成30年度契約の入札を2月、3月に予定しています。入札参加希望の方は当院ホームページで入札公告をお知らせ致しますのでご確認お願い致します。

- ・医療用ガス（液体酸素、医療用炭酸ガス）
- ・白衣洗濯業務委託
- ・寝具設備賃借
- ・産業廃棄物収集運搬処理業務委託（紙おむつ）
- ・富士医療用画像情報システム保守契約
- ・GE製256列CT装置 ワークステーション保守契約
- ・当院で使用する電気の契約

お問い合わせ先

独立行政法人地域医療機能推進機構

人吉医療センター 経理課 契約係長 村山 純一

TEL：0966-22-2191 FAX：0966-24-2116

新任紹介



福嶋 結花（医事課・事務員）

最終卒業校：税務大学

趣味：お菓子作り

モットー：ポジティブ

自分の性格：一生懸命

自分のコマーシャル：笑顔で頑張りたいと思います。よろしくお願ひいたします。

1月の勉強会報告

2月2日(金)人吉・球磨パーキンソン病研究会

「パーキンソン病の診断と治療」

熊本大学医学部附属病院 神経内科 特任教授 中根 俊成先生

2月7日(水) Tekeda-Otsuka GI-Week Web conference

「肝移植での長期生着における課題と展望」

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻

移植・消化器外科学 助教 日高 匡章先生

「抗血栓薬継続下における消化管出血対策～ポノブラザン

による酸分泌抑制の意義も踏まえて～」

長崎大学病院 光学医療診療部 講師 山口 直之先生

2月19日(月)臨床に役立つ漢方セミナー

「ジェネラリストのための漢方薬-救急・総合診療で役立つ使い方-」

熊本赤十字病院 総合内科・総合診療科/熊本大学医学部 臨床教授

加島 雅之先生

2月26日(月)第91回乳腺カンファレンス

「腋窩の腫瘍影で発見された副乳癌の一例」

当院 臨床研修医 金光 紘介先生

「がん化学療法中における歯科・口腔支持療法の意義と実際」

当院 歯科口腔外科センター 野村 昌弘先生

